

2016年8月22日

## 札チャレラジオ通信 第32回

岡野：三角山放送局をお聴きの皆さん、こんにちは。札チャレラジオ通信です。私はパーソナリティーのNPO法人札幌チャレンジの岡野です、よろしくお願ひします。札チャレラジオ通信は自立を目指す障害のある人がITでマザル、ハタラク、拓き合う社会を作りたいとの思いで活動をしている、NPO法人札幌チャレンジが毎週月曜日この時間に札幌チャレンジの活動内容をお伝えする番組です。今年1年放送予定でございます。ぜひ皆さんお聴きください。

先週は三角山放送局さまも夏休みのため生放送がお休みということもあり、2週間ぶりの放送となります。先々週も加納さんお一人でのパーソナリティーでしたが、今週も岡野が一人で担当します。放送事故が起きないように頑張りますのでよろしくお願ひします。

今日は札幌チャレンジの現況お伝えしようかなあと、こう思っております。札幌チャレンジは2000年の団体創設より、パソコン講習、2002年には日常生活用具支援、2006年就労継続支援サービスA型、そして2011年からは就労移行支援サービスの活動を実施しています。札チャレラジオ通信ではそれぞれの担当者が持ち回りで放送を続けています。

それぞれの放送日には、日頃お世話になっておりますゲストの方々にご参加いただいておりますが、残り4ヶ月となり、今日はその札チャレの現況報告、並びにいろいろ札チャレの概況というのをちょっとお伝えしようかなと考えております。

とはいっても私も先々週に加納さんの職員紹介というところでは残念ながら4名の内に入りませんでした。というのは札幌チャレンジに入って、私はまだ2012年の4月からですからやっと5年目になった新人ということなので、次回の職員の紹介というところから出てくるかと思ひますけれども、その時に私の細かい話はお聴きいただければなあと思ひます。

札幌チャレンジの概況ということなのですけれども、札幌チャレンジ、我々は略して札チャレと言っているのですけれども、札チャレをお聞きのあるいはご存知の皆様は札チャレあるいはチャレンジという言葉はご存知かと思ひますけれども、三角山放送局をお聴きの皆さんはこのチャレンジという言葉、ちょっとあまり聞き慣れない言葉でないのかなあと思ひます。

実はこれは英語で一般にチャレンジと、チャレンジと、挑戦という意味がある英語でなくてですね。正式にチャレンジというのは、神からチャレンジすべき課題や才能を与えられた人、という意味が込められている英語だそうです。

障害のある方、我々はチャレンジドと言ってますけども、いろいろなチャレンジドの方、いろいろ接しますけども、やはり素晴らしい才能を持ってる方、あるいは残念ながらちょっと課題を持たれてる方、いろいろな方がいらっしゃいます。その人と一緒に我々はこれから世の中混ざって働いていく世の中を作っていく世の中を作っていくのが我々のテーマということで活動しています。

また、札チャレのロゴというのも2000年に作った時にはパソコンのマウスに羽が生えて2000という数字が入ったそういうロゴを使ってました。ちょうど15年目を迎える2014年ですね、職員が1年間集まって、今後15年経って札チャレをどうしていこうかという打ち合わせをずっと続けていたのですが、そのなかである方からあのロゴってどうしてできたの。あのロゴの色ってあの色なの、っていう質問をいろいろ投げかけられたときに職員としてそれは回答できなかったのですね。

日頃使ってるロゴだとか色の意味とか我々深く知っていなかったというのが非常にショックで、これから新たに札幌チャレンジドが進んでいく上ではロゴ、あるいは色、こういうのも意味をしっかりと捉えて職員全員がメンバーと進んでいく必要があるのではないかなあと考えて、今、新しいロゴに変えました。ちょっとラジオではお伝えするのが非常に難しいのですけれども、アルファベットで札幌チャレンジドの頭文字をとって、SCと。このSCでパソコンのディスプレイの外枠を作ってます。そのなかにスイッチ、これがちょうど鼻ですね。で、あと目と口をいれて。パソコンのディスプレイで大きな札幌チャレンジドとマークということを作っております。

サブタイトルとしては、ITでマザル、ハタラク、拓き合うということで、従来札幌チャレンジドができた時には、パソコンの技術習得というのを中心に謳ってたのですけれども、今パソコンだけでなく、スマホですとか、タブレット、そういうIT機器、これがかなり枠が広がってきたということで、名前をこのITでマザル、ハタラク、拓き合うということにしました。

そういう意味もありまして、今年一年間この三角山放送局で札幌チャレンジドの活動というのを説明させていただいております。

活動内容、先程言ったように、大きく4つの活動内容があるのですが、まず最初2000年、設立当時からやってます、パソコン講習ですね。2000年、ちょうどWindows2000が発売されて、一般企業さんでは職員がパソコンを使えるというのはごく当たり前の時代だったのですけれども、まだ残念ながら障害のある方にパソコンが使える、パソコンを教えるというようなそういうようなシステムあるいは講習会場っていうのはほとんど無かったと聞いてます。そこで、北海道で障害のある方の指導をしたいという有志の方が集まって札

札幌チャレンジドっていうのを団体を作り上げたということだそうです。ただ作った2000年の時には、札幌チャレンジド自体でパソコンも無いし、パソコンを教える会場も無く、いるのはパソコンが教えられる、そういう意欲を持った人たちしかいなかったそうです。そこでどうしたかという、パソコンが教えられる会場をどこかで借りれないかということで、職員がいろいろあつたところ、札幌市内の私立大学さんの方で、当時パソコン講習室というのがあって、そこで土曜とか日曜、学生さんが使わない時だったら使っていよいよという嬉しいお言葉をいただいて、それから講習をスタートしたというふうなことです。その後いろいろ助成金等の申請をして少しずつパソコンが一台、二台と増えてきて、いろいろなそういう学校だけではなくて、町の会館ですとか、市の区役所の場所だとかそういうところで講習というのを進めてきたというのが現在に至っています。

パソコン講習でも、大きく分けると実は二つあります。札幌チャレンジドが主宰をしているパソコン講習と、札幌市から受託しております、札幌市障害者ITサポートセンター事業と、パソコン講習もこの大きな二つの事業に分かれております。両方でパソコン講習というのをやっております。もう一つ、パソコン講習だけでなく、訪問講習というのをやっております。特に札幌市障害者ITサポートセンター事業では、場所を二十四軒、地下鉄の二十四軒駅のそばにある札幌市身体障害者福祉センターにあるパソコン講習室、これの維持運営、並びに札幌市パソコンボランティアの派遣事業というのを我々が受託しています。2003年から受託していますのでもう十数年経っております。特にこのパソコンボランティアさんの派遣に関しましては、やはりまずは訪問して指導ができるボランティアさんを養成しなきゃいけないということで、これも毎年10月の末から12、1月にかけてパソコンボランティアさんの養成講座というのを開催しています。大体1会場で20名位程度しかちょっと講習ができないものですから、毎年20名位の方へのパソコン訪問講習のための指導を行ってます。

まず障害のある方はチャレンジドの方へのパソコンをいかにお教えするか。チャレンジドの方でもいろいろな障害の方がいます。身体の方がいる、精神の方がいる。身体の方でも視覚の方、聴覚の方、いろいろな障害の方がいます。ですからその方々にあった指導方法というのはボランティアさんが身につけなきゃいけないということになってます。昨年実績でボランティアさん、今66名の方が登録していただけてます。この66名の方が1年間で、約平成27年度昨年度で440回の訪問講習を実施しているということだそうです。活用してる障害のある方が約90名ですから、お一人5回ちょっとの平均の利用回数ということになってますね。ということでこのパソコン講習っていうのも札幌チャレンジドが主宰してるパソコン講習、それと札幌市の障害者ITサポートセンター事業という受託してる講習という二つに分かれます。

あとパソコン講習も従来は本当にキーボードを打つパソコン講習だったのですが、昨年から赤い羽根の募金の助成金をいただきました。iPad、これを購入することができて昨年からはiPadの講習というのもスタートしました。かなりこれも人気が高くてですね、毎回毎回定員という形で講習をスタートさせていただいております。

そのパソコン講習と繋がってるというか、そのなかで実際使ってるソフト、視覚障害者のソフトの提供ということで日常生活用具支援ということで、読み上げソフトですとか、拡大読書機というような視覚障害のある方への支援というのでも実施してます。

まずは全体とそこのパソコン講習についてお話をした段階でちょうど半分になりましたので、これからちょっとリクエスト曲、私からですけれども、中島みゆきの「ヘッドライト・テールライト」をお送りします。

岡野：札幌チャレンジ通信、後半になります。今回のリクエスト曲「ヘッドライト・テールライト」ですけれども。ご存知の方も多いかと思いますけど、NHKの総合テレビ「プロジェクトX挑戦者たち」のエンディングテーマで、今の日本を築き上げた人たちの感動の話を聞いて、そして最後このエンディングで「旅はまだ終わらない」というこのフレーズですね。これに非常に感動した思い出の曲でした。

後半いっていきましょう。後半は三つめの就労継続支援サービスA型という事業になります。こういう福祉関係に携わっている方はこういう就労継続支援サービスという名前お聞きになったことあって内容もご存知かと思うのですけれども、一般の方はおそらく耳にしたことがないような言葉じゃないかと思います。

具体的にどんなことかということ、簡単にいうとその事業所で働くというようなことかと思えます。就労継続支援サービス、こちらで利用されてる方は札幌チャレンジの社員というような形で、札幌チャレンジがいろいろな企業さんから受託したその仕事を札幌チャレンジで業務としてやっていただくという形になってます。就労継続支援サービスにはA型とB型という二つのタイプがありまして、札幌チャレンジはA型という形になります。A型というのは雇用型ということで、札幌チャレンジで利用されている方と札幌チャレンジが雇用契約を締結するというような形になってます。

ですからやはり札幌チャレンジの社員ということで仕事をしていただいているということになります。今、札幌チャレンジではA型を利用されている方が合計で33名いらっしゃいます。男女間ですけれども、男性が今17名、女性が16名ということで、ほぼ半々のウエイトになってますね。どういう障害のある方が来ていらっしゃるかというと、7月現在では身体と、最近、精神、発達障害のある方が結構増えてまして、大体身体ともに41%前後のウエイトになってます。あと知的の方が1名いらっしゃるのと、市の認定された病院で診断書もらった方もこういう所に通うことができますので、こういう診断書とか難病の方も

こういうA型を利用することができてます。診断書、難病で5名の方ですから約14%くらい、知的の方、今1名ですね。あと精神とか発達の方で13名、身体で14名というようなウエイトになってます。特にこの中で就労継続ということで、全員が札幌チャレンジドに毎日来て仕事をしているかという決めてそうではなくて、実は在宅就労というのでも我々は支援しています。

やはり札幌チャレンジドまで通ってこれない、あるいはそれだけの移動には大変な方がいらっしゃいます。あるいは公共の、地下鉄とかバス、これがやはり利用できない方等々いらっしゃいますので、こういう方でやはりそれなりのパソコン能力のある方はご自宅で仕事ということで、33名中今6名の方が在宅で、ご自身の家で仕事をいただいているという形になってます。どんな活動をしてるか、どういう仕事をしてるかといいますと、大きく言いますと、一つは動画サイトに関しての業務というのをやっています。

日本で有名な動画サイト、これの日中の監視業務は実は札幌チャレンジドが行ってます。動画サイトっていろいろな人が自由にコメントを載せたりとかいうのができるのですが、やはりなかには今現在使っちゃいけない言葉、表現で書いてしまうっていう方もいらっしゃいますので、そういう言葉をずっと掲載してるっていうのはちょっと問題がありますので、そういうのはやはり申し訳ないのですが速やかに削除をさせていただくと。こういうための監視業務というような形で今だいたい10名ちょっとですかね。ずっとディスプレイを見てますので大変ですから、大体一人1時間交代で、交代制でやっています。

それ以外に2番目に大きな事業としては、海外航空券の予約サイトのデータベース入力ということで、大手の航空会社の関連のところから世界の航空運賃のデータベース、あるいは世界各国の空港の利用税、これのデータベースというのを委託されて作ってます。一社からいただいているのは画面自身がすべて英語というのもあって、多少英語能力を要求されるというのがあるのですが、文章を読み取ってそれをデータベース、表の中に入れ込むというような作業ですから、こういうのがちょっと得意な方ぜひ札幌チャレンジドで仕事をしてはいかがでしょうかということで、かなりの人数も少なくなっておりますので募集しておりますので、ぜひ仕事をしてみたいという方は札幌チャレンジドにご連絡いただければなあと思います。

最後四つ目ですが、今度就職支援ということで、法律用語でいくと就労移行支援サービスという名前になります。分かり難いですねえ。先程は就労継続支援サービス、今度は就労移行支援サービスと。就労移行支援サービスというのは、企業さんへの就職を目指す方へのいろいろな訓練の場というような形になってます。札幌チャレンジドは以前からパソコンを中心にしましたので、パソコンのWord、Excel、PowerPoint、そういう操作能力こ

れを身につけていただくのと、最近はコミュニケーション能力、やはり働くうえでは非常に大事なウエイトを占めるそのコミュニケーションということで、毎週専門のプロの先生にお越しいただいて、コミュニケーション訓練というのをやっています。

おかげさまでといいますか、皆さん一生懸命勉強していただいた結果、就職率なんかはこの就労移行支援サービスの中ではかなり高い就職率を示しています。昨年12月段階でいくと、就職率で今67.5%と。それともう一つ皆さんにお伝えしたいのが定着率ということで、就職した方がどれだけずっと長く仕事をしていただいているかというこの定着率なのですが、2011年の11月からスタートして就職された方の定着率が80%ということで、これもおそらく移行支援のなかではトップクラスの数字ではないかと思えます。移行支援では随時入れるかという決めてそうじゃなくて、年間4月、6月、9月、11月、1月この5回訓練のスタート日っていうのが決まっています。

そのなかでも特に4月と9月、これは視覚コースということで視覚障害のある方の訓練のスタート月になってます。詳しくは札幌チャレンジドの移行支援というところにご連絡をいただければなと思っております。

ということで一人でなんとか最後のエンディングまでやってまいりました。札幌チャレンジド、2000年の設立当時からいろいろボランティアさんのご協力に支えられて今までここにこられてるかと思えます。これからもいろいろなボランティアさんのお力をお借りして進めていきたいと思えます。特にボランティアさんでいくと先ほどいったITサポートセンターのパソコンボランティアさん、聴覚の方の講習のための手話通訳、要約筆記ボランティアさん、情報誌の印刷とか発送ボランティア、いろいろなボランティアさんを募集しております。ぜひ興味のある方は札幌チャレンジド、札幌 011-769-0843。769-0843までお電話をいただければと思います。来週は講習グループの高橋さん、飯村さんが担当いたします。

今日は岡野一人でお送りしました。ではまた来週お会いしましょう。さようなら。